



飯能ロータリークラブ会報

飯能河原遊歩道 The promenade along the Hannoriver この写真は車乗入れ禁止前のものです。 © photo by Isao Yoshida

“THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS”

ロータリーの未来は あなたの手の中に

RI会長
ジョン・ケニー
2570地区ガバナー
加藤玄静

今を大事に

第2387例会 2010.5.19

例会場：マロウドイン 飯能 〒357 0021 飯能市双柳 105 8
(042)974 4000

事務局：飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町 1-7

☎(042)974-3111(代) FAX (042)973-1662

http://www.hanno.jp/~hannorc/ Eメール hannorc@hanno.jp

天候 曇 (NO.46-47)

会長 木川一男 幹事 山川 荘太郎

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 前島君、丸山君

- ・点鐘 木川会長
- ・ソング 我等のなりわい
- ・米山奨学生 ケオサワン・ラマイさん
- ・卓話 生島英雄様

【会長報告】

5/13 入間RCで加藤ガバナーはロータリーの友の会顧問という立場から公式地域雑誌の「ロータリーの友」を活用しようとの卓話をされました。1953年1月、東日本、西日本の2地区共通の雑誌の発行が決定、第1号が創刊。最初は横組スタート。俳句等が横組では具合が悪いため、S47年より現在の形になりました。1977年「クラブ定款第10号」に、地域社会における雑誌の規定が設けられ、「友」は1980年7月から公式地域雑誌になります。2002年、B5からA4判に変わり、2003年1月号で創刊50周年、1冊210円。ガバナーの仕事が忙しく娘の結婚式にも出席出来なかったとのこと。宇宙飛行士・山崎直子さんは新松戸RCがお世話した奨学生だそうで、宣伝が足らなかったとお話でした。

2009～10年度米山奨学生の投稿作文で最優秀だった朴惠善さん/立教大学コミュニティ福祉研究科2年生 新所沢RCで私がやりたいことを紹介します。

私は韓国の小さな村で生まれました。兄弟姉妹6人の大家族。いつも賑やかで食べ物は全て6等分しないと頂けなかったのが少し不満でした。しかし振り返ってみるとその時が一番幸せな時間だったと思います。私がかここで好きな勉強が出来るのも家族の支えがあるから。私にとって家族は宝物です。中学からは朝から晩まで勉強。都市の良い高校に入るため、良い大学に入るため、その時はそれが当たり前だと思っていました。ソウルにある大学を卒業して外国人の会社で働いていた時、結婚2年目の姉が胃がんでした。姉は出産後の検査でがんを知りましたが既に手遅れでした。1年間の姉の看病を通じ、姉のために何が出来るか考え、必死に祈っていました。姉から「生きたい」という言葉を聞いて命の大切さを心から理解しました。姉のように、生きてくても生きられない人達のため、出来るがあれば何かしようと思い始め福祉のことを考えるようになりました。妹が日本に留学していたので日本への留学を決め、2年間、日本語学校で学び、1年間、大学院研究生として専攻分野の研究をしました。大学院に入ってから日本語や専門科目の基礎知識等の大きい壁に突き当たり、勉強を継続するのが正しいかということから研究テーマに至るまで、いろいろなこと悩んでいました。その時、指導の先生が

一つずつ相談に乗ってくれました。難しいと思いましたが、しかし不思議でした。拒絶感は一切ありませんでした。それから私は、日本で自殺問題を社会化するために活動している「NPO法人自殺対策支援センター・ライフリンク」でボランティアを始めました。「ライフリンク」が「命を守るために繋がる」という思いから発足。自殺を、個人の問題から社会の問題とするため「自殺対策の法制化を求める3万人署名活動」を展開、2006年には「自殺対策基本法」が成立しました。実態が分からなければ十分な対策が取れないことから、2007年4月から現在まで、自殺遺族や他分野の専門家と連携して「声なき声」に耳を傾ける「自殺実態1000人調査」を実施。日本には1988年「ちいさな風の会」を始め、現在は全国21以上の遺族の集いがあります。「ライフリンク」は2008年に「全国自殺遺族支援センター」を設置し活発に活動。私は自殺遺族のシンポジウムや全国自殺遺族の集まり等に参加しつつ、継続的に全国の遺族の方々と関わり合いを持っていきます。遺族の方々や接すれば接する程、自殺予防のためもっと頑張らなければと思いつつ研究者として研鑽し続けました。日本は、病んだ人や哀しみを抱く人にとって居場所が見つけにくい社会。自殺への偏見。多くの遺族は孤立しており、心の苦しみを誰に語ることも出来ず、人目を気にかけ思い切り泣く事も笑う事も許されないと言われています。また、死因ばかりか、亡くなった事そのものを世間に隠して暮らしている人も少なくありません。私はこれからも苦しんでいる遺族の方々や人の命を救うため一生懸命頑張りたいと思っております。最後に、皆様のお蔭で研究に集中出来、心の余裕を持つことになりました。これからは皆様のように社会に奉仕する人間になります。実は昨年まで苦しくて「何で私がここに居るのだろう」と溜め息ばかりついておりました。毎朝6時からバイト、終わったら学校、ボランティア...苦しい日々でした。肉体的にも精神的にも疲れ毎日泣きました。全部諦めて韓国に帰りたいと思ったのですが勉強もボランティアもしないといけないと思っ止むを得ず居ました。私が国に帰らないでここに居ることは全て皆様ロータリアンのお蔭です。今年、米山奨学生となって「何のために勉強するのか」初心に帰ることが出来ました。昨年「自殺対策支援センター」でボランティアとして皆様から頂いた優しさ、温かい心を伝えていくため尽くしています。本当に感謝しております。

【幹事報告】

- ・6/5 新現会長幹事会「東武サロン」
例会変更のお知らせ

